

# もっと知ろう“陶”

## 33. 方言昔話(5) うさぎ岩

(うさぎは1羽、2羽と数えるのが正しいが、一般的には1匹、2匹と表現)

今のお月様にゃあ餅つきうさぎは2匹しかおらんけどの一、大昔にはの一、月の神様にお仕えするどーらーぎょうさんのうさぎがおったそうな。

月の神様はどーらーきれい好きでの一、ほんだもんで地球から見えるお月様はきれいなんよ。しかもお恵み深あ神様での一、お月様の国で餅をついちゃあ他の星の神様にも分けてあげとったそうな。

お月様の国をきれいにしたり、餅をついたりすんのはうさぎんたあの仕事なんだけんど、神様に背いて掃除も餅つきもやらへんうさぎんたあもおっての一、お月様の神様はそういう怠けうさぎんたあを次から次へと俺らの地球に下ろーてしまやーたそうや。

最後まで残ったウサギは3匹で、2匹のうさぎで餅をつき、もう1匹は手返しをしよーたげな。

お月様では、いっつもかも餅をついとるんやけど、どんだけついても足らへん。だって、どーらー数の星の神様たあに分けてあげるんやから。そのうち、手返しウサギは先に地球に下ろされたうさぎんたあと同じように、だだをこねて時々手返しを怠けるようになってしまったそうや。

月の神様は、手返しウサギに餅つきの大切さを話したんやけど、そのうち全くやらへんくなってしまう。だもんで、他のウサギんたあと同じように、ついに地球に追いやってしまわれたんや。そんやから、残った2匹だけで餅をつくようになったんよ。

先にお月様の国を追われたウサギんたあは、昼は寝て、お月様が出るがさあと、お月様に向って急に踊り出して月を懐かしむのや。そのうち、ウサギんたあは野ウサギとなり山うさぎとなっちゃって、夜しか行動ができへん体になっちゃったそうや。

最後に下ろされた手返しウサギも、他のウサギと同様に月を懐かしみ、お月様のもとへ帰りたくなり、近くが一番高い山に登って月の神様にお願いしようと山に登りかけたんやけど、昼間はキツネや犬にばいかけられてなかなか登れやせん。やっと8合目まで登った時、太陽が出てきて昼間となり、ついに動けんなくなって岩となってしまったのや。これが現在のウサギ岩や。

迎える新年の干支は、うさぎ年の3つ前のねずみ年です。3年フライングになってしまいました。よいお年をお迎えください。

